２０１９（令和元）年度

地域連携センター年報

津市立　三重短期大学

目　　次

地域連携センター事業を振り返って

Ⅰ　令和元年度　地域連携事業の概要　・・・　1
1　生涯学習機会の提供
(1)　オープンカレッジ　・・・　2
(2)　地域連携講座　・・・　7
(3)　みえアカデミックセミナー2019　・・・　8
(4)　出前講座　・・・　9
(5)　プログラミング講座　・・・　12
(6)　講座開催一覧　・・・　13
(7)　科目等履修生制度　・・・　15
2　高等学校等との連携
(1)　高大連携校との高大連携　・・・　17
(2)　一身田中学校図書館ボランティア活動　・・・　18
(3)　市内学校への図書指導事業　・・・　18
3　産学連携の推進
(1)　株式会社三重銀行及び株式会社三十三総研との産学連携　・・・　19
(2)　三重短期大学シーズ集「みえたんの種」の活用　・・・　23
4　市政との連携
(1)　政策研究・研修　・・・　24
(2)　市政との連携講義「自治体行政特論」　・・・　27
(3)　審議会、委員会委員への参画　・・・　29
5　地域の大学との連携
(1)　三重大学生物資源学部との連携　・・・　33
(2)　三重大学教育学部家政教育コースとの連携　・・・　33
(3)　三重まちキャンパスｉｎ三重短期大学　・・・　35
6　学生による地域連携
(1)　地域連携サポーター制度　・・・　36
(2)　津市消防団学生機能別消防団員　・・・　37
(3)　三重短期大学大津波想定避難訓練　・・・　37
(4)　美化デー　・・・　38
(5)　榊原の地域振興を考える会との連携　・・・　38
・・・
Ⅱ　資料
1　施設開放　・・・　39
2　三重短期大学地域問題研究所の研究一覧　・・・　41
3　令和元年度三重短期大学出前講座　テーマ一覧表　・・・　45

地域連携センター事業を振り返って

地域連携センター長
楠本　孝

本学は、津市が設置する公立短期大学として、従来から「地域に開かれた大学」を目指してきた。大学の理念にも「地域貢献の理念」を掲げ、「津市が設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え、生涯教育の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する」ことを大学の責務として謳っている。この地域貢献の理念を実現するため、2008 年 4 月に、地域連携及び地域貢献事業を所掌する総合窓口として「地域連携センター」を設立し、教員のセンター長の他に担当の事務職員が配置された。

「地域連携センター」は、設置目的のなかに、「三重短期大学は、少子高齢化時代の福祉の充実、生涯学習ニーズの高まり、情報化の高度展開など地域の抱える課題を常に念頭において、地域社会が求める人材の養成ばかりでなく、産学官連携、自治体の政策課題等の研究、地域の生涯学習との連携などに取り組むことを通じて、地域社会や住民との連携・交流を重視し、市民文化の向上と地域・産業の活性化に貢献することをめざしてまいります」と宣言するとともに、「生涯学習機会の提供」、「高等学校との連携」、「産学官連携の推進」、「市政との連携」、「地域の大学との連携」、「学生ボランティア活動の支援」を所掌事業として掲げている。

生涯学習のための教育プロジェクトとして、本学では「オープンカレッジ」と「地域連携講座」を開講している他、「出前講座」も行っている。「オープンカレッジ」は、本学の教員が講師となって市民の方に大学の講義を気軽に体験していただくことを狙いとして、7 月から 11 月に、毎月１回、土曜日に２講座ずつ開催する連続講座である。「地域連携講座」は、本学の教員がコーディネーターとなって学外から講師を招き、市民の方に対して、地域の身近な話題を専門家が分かりやすく解説することを狙いとして、年２回開催している。「出前講座」は、本学教員の研究や社会活動の中から講演可能なテーマを事前に設定し、市民の要望に応じて、教員が出向いて講演・解説などを行うものである。概ね 15 名程度以上の参加が見込めるグループ・団体が開催する三重県内の集まりを対象としている。いずれの講座も、年々受講者が増えており、市民の間に定着してきたと言える。

本学は、2008 年 3 月に三重県立亀山高校と初めて高大連携協定を締結したのち、2010 年 3 月に三重県立津商業高校と、同 6 月に三重県立相可高校と、2012 年１月に三重県立みえ夢学園高校、三重県立久居高校と高大連携協定を締結し、現在協定締結校は５校となっている。一方、株式会社三十三総研から資金を得て、三十三総研（2017 年までは三重銀総研）と本学の共催で、学生を対象とした「小論文・作品コンクール」を 2007 年から毎年開催している。学生からの応募数が増加してきており、学生の間に定着してきている。「政策研究・研修」は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、自治体職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決に当たるとともに、より戦略的な政策の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的としており、連携センター設立当初から実施している事業である。

2015 年度に文科省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）」に三重大学の事業が採択され、本学もこの事業協力機関として参加するとともに、三重県内の 14 高等教育機関と県は、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現するため、「高等教育コンソーシアムみえ」を設立し、本学も一定の役割を果たしている。

このように地域連携センターの事業は年々拡大してきているが、それを持続可能なものにするには事業を支える組織の強化が不可欠である。今後とも、組織を構成する個々の教員・職員が研鑽を積むことで組織を強化していきたい。

令和２年１２月

Ⅰ　令和元年度　地域連携事業の概要

地域連携センターを中心に、本学の地域連携の６つの柱のもと、令和元年度は次のような取組を進めた。

三重短期大学地域連携センター

本学では、1952（昭和 27）年の開学以来、地域問題の研究や公開講座の開講など地域に開かれた大学づくりを進めてきたが、2008(平成 20)年、この地域への貢献、地域との連携を組織的かつより積極的に進めるため地域連携センターを設置し、センター長と事務局に専任職員を配置するとともに、学内には地域連携委員会を立上げた。

その際、本学が当面実施すべき地域連携事業の取組を次の６つに整理した。

(1)　生涯学習機会の提供

市民のニーズを把握し、学科の特性に応じて教養的なものからより専門的なものまで多様な地域連携講座や公開講座などの教育プロジェクトを提供するなど生涯学習機会の提供を図る。

(2)　高等学校等との連携

より高いレベルの教育を受けることを希望する高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高大連携講座など三重県内の高等学校等との相互の協力・連携事業を推進する。

(3)　産学連携の推進

教育内容をより充実し、社会の要請に応えることとするため、企業や NPO との連携を推進するとともに、企業や団体などのニーズに即した受託研究等を推進する。

(4)　市政との連携

津市や地域の自治体が抱える政策課題について、教員と自治体職員が共に調査・研究を行い、課題解決と自治体職員の人材育成を目指す「政策研修」を実施するなど津市が直面している諸課題に対応し、市の発展に資するため、市政のシンクタンクとしての機能の強化を図る。

(5)　地域の大学との連携

教育・研究活動の一層の向上を図り、また、更なる地域社会の発展、貢献のため、地域の大学間の学術交流や協力・連携を強化する。特に、市の４つの大学、短期大学の特性を活かした連携を進めることを目指す。

(6)　学生による地域連携

地域課題を常に意識した教育を追求し、ボランティア活動の促進、フィールドワークの拡充などを通して地域問題への関心の喚起により将来の地域リーダーの育成を目指す。

１　生涯学習機会の提供

本学では、平成１９年度から津市元気づくり事業の一環として地域連携講座を開講、また平成２４年度より、本学の講義を多くの方に体験していただくことを目的に「オープンカレッジ」、「出前講座」を開設した。そして平成３０年度からは、小中学生向けに「プログラミング講座」を開設した。

さらに、三重県生涯学習センターによる県下高等教育機関の連携事業「みえアカデミックセミナー」にも積極的に参加し、教育研究の成果を市民に還元している。

また、本学の通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される科目等履修生制度も多くの利用があった。

（1）オープンカレッジ

市民の方が大学の講義を気軽に体験できるよう、引き続きオープンカレッジを開設した。

月１回２講義を５か月間、本学教員がアラカルト形式にて実施し、全１０講義のうち８講義以上を受講した受講者に修了証書を発行した。

ア　地域の医療・介護をめぐる改革の方向性を知る

①　開催日時　　令和元年７月６日（土）午後１時３０分～午後３時

②　会　　場　　４１番教室

③　概　　要　　地域の医療・介護はどうなっていくのでしょうか？制度改革の方向性をみなさんとともに把握し、私たちに求められている地域づくりへの関わりについて考えます。

④　参加者数　　５４名

⑤　担当教員及び講師　生活科学科　教授　長友　薫輝

イ　自治体戦略 2040 構想をご存知ですか？

①　開催日時　　令和元年７月６日（土）午後３時１５分～午後４時４５分

②　会　　場　　４１番教室

③　概　　要　　2018年7月総務省に置かれた自治体戦略2040構想研究会が第二次報告を公表しました。報告では 2040 年ごろに人口減少が深刻化し、内政上の危機的な状況が訪れることを予測しています。そして、報告書ではこの危機意識を踏まえて、新たな自治体行政の基本的考え方を提示しているのですが、果たしてそれが地方の未来を明るくすることにつながるのでしょうか。報告書の概要を紹介し、それをどのように評価すべきか考えたいと思います。

④　参加者数　　５７名

⑤　担当教員及び講師　法経科　教授　藤枝　律子

ウ　食状況の変化と課題

①　開催日時　　令和元年８月３日（土）午後１時３０分～午後３時

②　会　　場　　４１番教室

③　概　　要　　三重県で行われた栄養調査から、私たちの食生活がどのように移り変わってきたかをご紹介します。そこから私たちが今取り組むべき課題について考えます。

④　参加者数　　５３名

担当教員及び講師　生活科学科　准教授　駒田　亜衣

エ　人工知能の現状と近い将来

①　開催日時　　令和元年８月３日（土）午後３時１５分～午後４時４５分

②　会　　場　　４１番教室

③　概　　要　　ディープラーニングによって人工知能が急速に進化している。それより社会が大きく変わろうとしている。人工知能が今できること、近い将来起こることについて紹介する。

④　参加者数　　５９名

⑤　担当教員及び講師　生活科学科　准教授　笠 浩一朗

オ　企業の内部留保とは？内部留保について考える

①　開催日時　　令和元年９月７日（土）午後１時３０分～午後３時

②　会　　場　　４１番教室

③　概　　要　　本講義では、年々増加する企業の内部留保について解説します。2017 年 10 月の衆議院議員選挙では、「内部留保課税」や「内部留保の使い道」について意見が上がるなどして、内部留保への注目が高まっています。まず、内部留保とは何を指し、どのようなものなのか？どうして内部留保が増加しているのか？近年の研究結果を踏まえ、内部留保について考えていきたいと思います。

④　参加者数　　４９名

⑥　担当教員及び講師　法経科　准教授　田中　里美

カ　マイナンバー制度について

① 開催日時　　令和元年９月７日（土）午後３時１５分～午後４時４５分

② 会　　場　　４１番教室

③ 概　　要　　現在、行政業務の効率化、地域経済活性化、といった目的でマイナンバー制度が活用されています。当該制度の活用場面は、今後より拡大していくようです。このような状況の下では、マイナンバー制度の関係者において、そのより深い理解は欠かせません。本講座では、マイナンバー制度の現状とその将来像とをわかりやすく紹介します。

④ 参加者数　　５２名

⑤ 担当教員及び講師　法経科　准教授　大畑　智史

キ　国家予算の法的性格について

① 開催日時　　令和元年１０月５日（土）午後１時３０分～午後３時

② 会　　場　　４１番教室

③ 概　　要　　国家予算が憲法上どのように位置づけられているかについて紹介します。そこから，国会での予算審議が民主主義にとって非常に重要であるということを検討したいと思います。

④ 参加者数　　４８名

⑤ 担当教員及び講師　法経科　講師　鎌塚　有貴

ク　食卓を調理科学的な視点から考えよう～たんぱく質とその食品について～

①　開催日時　　令和元年１０月６日（土）午後３時１５分～午後４時４５分

②　会　　場　　４１番教室

③　概　　要　　生活の基礎となる食について調理科学的な視点からお話しします。５大栄養素のひとつであるたんぱく質を多く含む食品の成分と調理、調理操作による物性の変化などについて解説します。調理の理解を深め、楽しい食事作りから生活の質を向上し、疾病予防や健康の維持増進につなげていきましょう。

④　参加者数　　５１名

⑤　担当教員及び講師　生活科学科　助教　飯田津喜美

ケ　少年法適用年齢の引き下げ問題について

①　開催日時　　令和元年１１月２日（土）午後１時３０分～午後３時

②　会　　場　　４１番教室

③　概　　要　　現在、少年法の適用年齢は２０歳未満ですが、これを１８歳未満に引き下げる改正案が検討されています。選挙の投票年齢や民法の成人年齢に合わせようとするものです。しかし、これには反対意見も多いのです。なぜ反対するのでしょうか？背景を探ってみたいと思います。

④　参加者数　　４３名

⑤　担当教員及び講師　法経科　教授　楠本　孝

コ　ヨーロッパの絵画や詩に描かれる無常観

①　開催日時　　令和元年１１月２日（土）午後３時１５分～午後４時４５分

②　会　　場　　４１番教室

③　概　　要　　「平家物語」や「方丈記」で語られる生のはかなさや死を想う心は、日本固有のものではありません。ヨーロッパの絵画や詩に描かれる無常観をたどり、国や時代を超えた人間に共通の感性に触れてみたいと思います。

④　参加者数　　５０名

⑤　担当教員及び講師　学長（法経科　教授）　村井美代子

（２）地域連携講座

ア　外国人労働者をめぐる社会保障制度

①　開催日時　　令和元年９月２１日（土）午後２時００分～午後３時００分

②　会　　場　　４１番教室

③　内　　容　　生活保護制度をはじめとする社会保障の各制度と外国人との関係を説明し、現状の理解と課題を講義します。

④　参加者数　　４０名

⑤　講　　師　　奥貫　妃文

（相模女子大学 人間社会学部　社会マネジメント学科　准教授）

⑥　担当教員　　法経科　教授　楠本孝

イ　外国人労働者をめぐる労働政策

①　開催日時　　令和元年９月２１日（土）午後３時００分～午後４時００分

②　会　　場　　４１番教室

③　内　　容　　技能実習制度や新たな在留資格制度に関する問題点を整理し、今後に向けた課題を含めて講義します。

④　参加者数　　４０名

⑤　講　　師　　指宿　昭一（暁法律事務所　弁護士）

⑥　担当教員　　法経科　教授　楠本孝

ウ　第２回目　地域連携講座

①　開催日時　　令和元年１０月１２日（土）午後１時３０分～午後３時３０分

②　会　　場　　４１番教室

③　参加者数　　台風 19 号接近の恐れにより中止

（3）みえアカデミックセミナー2019

より高度な学習機会の提供を目指すとともに、県内の各高等教育機関の研究活動を紹介し、高等教育機関への理解を深めてもらうことを目的として、夏季期間に県総合文化センターを会場に各高等教育機関独自の研究テーマを発表する「公開セミナー」と、地域のニーズに応じて高等教育機関が地域に出向く「移動講座」がある。

平成 8 年に県内 4 年制大学による「三重 6 大学公開講座」としてスタートし、平成 16 年から、県内全ての短期大学、高等専門学校も参画し 15 の高等教育機関による公開セミナーを「みえアカデミックセミナー」としてリニューアルした。（※担当者会議資料（三重県生涯学習センター作成）等から）

①　開催日時　　令和元年８月１６日（火）午後１時３０分～午後３時２０分

②　会　　場　　三重県文化会館　レセプションルーム

③　内　　容　　講演　演題　新しい相続のしくみ

④　概　　要　　平成３０年７月に相続に関する民法の規定を改正する法律が成立しました。改正によって、配偶者の居住権の保護や遺言制度の見直し、配偶者の親の介護を行った者への一定要件下での金銭請求権の付与などが行われました。

本講演では重要な改正点について具体例を用いて解説していきます。

⑤　参加者数　　１３３名

⑥　担当教員　　法経科　講師　川上　生馬

（４）出前講座

本学教員の研究や社会活動のなかから講演可能なテーマを事前に設定し、要望に応じて地域に出向き、講演・解説などを行う出前講座を２０１２（平成２４）年度に開設した。（内容は「資料」の令和元年度三重短期大学出前講座テーマ一覧表参照）

ア　食事をバランスよく食べよう！

①　開催日時　　令和元年５月８日（水）午後１時３０分～午後２時３０分

②　会　　場　　津税務署

③　参加者数　　７０名

④　担当教員　　生活科学科　准教授　阿部　稚里

イ　自分はどんな性格なの？パーソナリティ心理学

①　開催日時　　令和元年５月２１日（火）午前１０時～午前１１時３０分

①　会　　場　　特別支援学校　　聖母の家

②　参加者数　　１７名

③　担当教員　　生活科学科　准教授　高橋　彩

ウ　魚を食べよう！

①　開催日時　　令和元年６月９日（日）午前１０時～午前１１時

②　会　　場　　井戸山地区集会所

③　参加者数　　３０名

④　担当教員　　生活科学科　教授　山田　徳広

エ　援助のキホンー専門職の援助観を考えるー

①　開催日時　　令和元年６月１２日（水）午後１４時～午後３時３０分

② 会　　場　　三重県社会福祉会館　３階
③ 参加者数　　２５名
④ 担当教員　　生活科学科　准教授　武田　誠一

オ　骨の健康を守るために

① 開催日時　　令和元年７月２３日（火）午前９時３０分～午前１１時３０分
② 会　　場　　村主公民館
③ 参加者数　　１６名
④ 担当教員　　生活科学科　助教　杉野　香江

カ　「赤毛のアン」を読み直す

① 開催日時　　令和元年１０月７日（月）午前９時３０分～午前１１時３０分
② 会　　場　　松阪公民館
③ 参加者数　　５０名
④ 担当教員　　学長（法経科　教授）村井　美代子

キ　地域で高齢者の生活を支えるために、私たちができること

① 開催日時　　令和元年１０月１９日（土）午前１０時～午前１１時３０分
② 会　　場　　磯部生涯学習センター　多目的ホール
③ 参加者数　　３００名
④ 担当教員　　生活科学科　准教授　武田　誠一

ク　自分はどんな性格なの？パーソナリティ心理学

① 開催日時　　令和元年１１月１３日（水）午後７時～午後８時
② 会　　場　　北郊デイサービスセンター
③ 参加者数　　１５名
④ 担当教員　　生活科学科　准教授　高橋　彩

ケ　働く前に知っておきたい社会保障のこと

① 開催日時　　令和元年１１月１４日（木）午前１０時～午前１１時３０分
② 会　　場　　朝明高等学校
③ 参加者数　　２５名
④ 担当教員　　生活科学科　教授　長友　薫輝

コ　プログラミング教育で何が変わるのか？

① 開催日時　　令和元年１１月１９日（火）午後２時～午後３時３０分
② 会　　場　　度会町中央公民館
③ 参加者数　　１９名
④ 担当教員　　生活科学科　准教授　笠　浩一朗

サ　地域の医療や福祉のことを考える

① 開催日時　　令和元年１１月２４日（日）午前１０時～午後０時
② 会　　場　　飯南コミュニティーセンター
③ 参加者数　　５０名
④ 担当教員　　生活科学科　教授　長友　薫輝

シ　援助のキホンー専門職の援助観を考えるー

①　開催日時　　令和元年１１月２７日（水）午後２時～午後４時

②　会　　場　　特別養護老人ホームさくら園

③　参加者数　　２０名

④　担当教員　　生活科学科　准教授　武田　誠一

ス　地域の医療や福祉、地域包括ケアについて

①　開催日時　　令和元年１１月２８日（木）午後１時３０分～午後３時３０分

③　会　　場　　三重県総合文化センター小ホール

④　参加者数　　２００名

⑤　担当教員　　生活科学科　教授　長友　薫輝

セ　健康のための運動と食事

①　開催日時　　令和元年１２月６日（金）午後１時３０分～午後２時４０分

②　会　　場　　津地方裁判所

③　参加者数　　２０名

④　担当教員　　生活科学科　講師　相川　悠貴

ソ　自分に必要な栄養量を考える

①　開催日時　　令和元年１２月６日（金）午後２時５０分～午後４時１５分

②　会　　場　　津地方裁判所

③　参加者数　　２０名

④　担当教員　　生活科学科　助教　杉野　香江

タ　保健機能食品を利用してみよう

①　開催日時　　令和元年１２月６日（金）午後３時３０分～午後５時

②　会　　場　　ホテルグリーンパーク津６階

③　参加者数　　８０名

④　担当教員　　生活科学科　助教　服部　知美

チ　三重県の食状況について

①　開催日時　　令和元年１２月１３日（金）午後１時３０分～午後４時

②　会　　場　　三重県総合文化センター

③　参加者数　　９０名

④　担当教員　　生活科学科　准教授　駒田　亜衣

ツ　地域の医療や福祉、地域包括ケアについて

①　開催日時　　令和２年１月１４日（火）午後１時３０分～午後３時３０分

②　会　　場　　四日市文化会館第４ホール

③　参加者数　　４０名

④　担当教員　　生活科学科　教授　長友　薫輝

テ　地域の医療や福祉、地域包括ケアについて

①　開催日時　　令和２年１月２４日（金）午後１時３０分～午後３時３０分

② 会　　場　　三重県営サンアリーナレセプション室
③ 参加者数　　４０名
④ 担当教員　　生活科学科　教授　長友　薫輝

ト　外来生物問題の環境倫理

① 開催日時　　令和２年１月２８日（火）午後２時～午後３時３０分
② 会　　場　　三重県総合教育センター
③ 参加者数　　２０名
④ 担当教員　　生活科学科　教授　南　有哲

ナ　ビタミンとミネラルの話

① 開催日時　　令和２年２月１７日（月）午前１０時３０分～午後０時
② 会　　場　　特別支援学校聖母の家学園
③ 参加者数　　６名
④ 担当教員　　生活科学科　教授　橋本　博行

ニ　保健機能食品を利用してみよう

① 開催日時　　令和２年３月２７日（金）午後６時３０分～午後８時１５分
② 会　　場　　都シティ津
③ 参加者数　　２５名
④ 担当教員　　生活科学科　助教　服部　知美

（5）プログラミング講座

平成３０年度より、小学校４年生から中学校２年生までを対象に、Scratch を用いた初心者向けプログラミング講座を開設した。

① 開催日時　　令和２年１月２６日（日）午後１時００分～午後３時３０分
② 会　　場　　情報処理演習室
③ 参加者数　　１６名
④ 担当教員　　生活科学科　准教授　笠　浩一朗

（6）講座開催一覧

区分	テーマ	開催日	会場	参加者（人）
オープンカレッジ	地域の医療・介護をめぐる改革の方向性を知る	7月6日（土）	41番教室	54
	自治体戦略 2040 構想をご存知ですか？	7月6日（土）	41番教室	57
	食状況の変化と課題	8月3日（土）	41番教室	53
	人工知能の現状と近い将来	8月3日（土）	41番教室	59
	企業の内部留保とは？内部留保について考える	9月7日（土）	41番教室	49
	マイナンバー制度について	9月7日（土）	41番教室	52
	国家予算の法的性格について	10月5日（土）	41番教室	48
	食卓を調理科学的な視点から考えよう～たんぱく質とその食品について～	10月5日（土）	41番教室	51
	少年法適用年齢の引き下げ問題について	11月2日(土)	41番教室	43
	ヨーロッパの絵画や詩に描かれる無常観	11月2日(土)	41番教室	50
地域連携講座	外国人労働者をめぐる社会保障制度	9月21日(土)	41番教室	40
	外国人労働者をめぐる労働政策	9月21日(土)	41番教室	40
みえアカデミックセミナー	新しい相続のしくみ	8月16日(金)	三重県文化会館レセプションルーム	133
出前講座（高大連携事業を除く）	食事をバランスよく食べよう！	5月8日(水)	津税務署	70
	自分はどんな性格なの？パーソナリティ心理学	5月21日(火)	特別支援学校　聖母の家	17
	魚を食べよう！	6月9日(日)	井戸山地区集会所	30
	援助のキホンー専門職の援助観を考えるー	6月12日(水)	三重県社会福祉会館３階	25

	骨の健康を守るために	7月23日(火)	村主公民館	16
	「赤毛のアン」を読み直す	10月7日(月)	松阪公民館	50
	地域で高齢者の生活を支えるために、私たちができること	10月19日(土)	磯部生涯学習センター　多目的ホール	300
	自分はどんな性格なの？パーソナリティ心理学	11月13日(水)	北郊デイサービスセンター	15
	働く前に知っておきたい社会保障のこと	11月14日(木)	朝明高等学校	25
	プログラミング教育で何が変わるのか？	11月19日(火)	度会町中央公民館	19
	地域の医療や福祉のことを考える	11月24日(日)	飯南コミュニティーセンター	50
	援助のキホンー専門職の援助観を考えるー	11月27日(水)	特別養護老人ホームさくら園	20
	地域の医療や福祉、地域包括ケアについて	11月28日(木)	三重県総合文化センター小ホール	200
	健康のための運動と食事	12月6日(金)	津地方裁判所	20
	自分に必要な栄養量を考える	12月6日(金)	津地方裁判所	20
	保健機能食品を利用してみよう	12月6日(金)	ホテルグリーンパーク津6階	80
	三重県の食状況について	12月13日(金)	三重県総合文化センター	90
	地域の医療や福祉、地域包括ケアについて	1月14日(火)	四日市文化会館第4ホール	40
	地域の医療や福祉、地域包括ケアについて	1月24日(金)	三重県営サンアリーナレセプション室	40
	外来生物問題の環境倫理	1月28日(火)	三重県総合教育センター	20
	ビタミンとミネラルの話	2月17日(月)	特別支援学校聖母の家学園	6
	保健機能食品を利用してみよう	3月27日(金)	都シティ津	25

出前講座（高大連携事業）	活動の違いが食欲に与える影響の観察	10 月 3 日（木）	相可高等学校	80
	製菓実習	12 月 11 日（水）	三重短期大学	49
	フェアトレードの挑戦	1 月 29 日（水）	久居高等学校	9
プログラミング講座	小中学生向けプログラミング講座 in 三重短	1 月 26 日（日）	情報処理演習室	16

（7） 科目等履修生制度

科目等履修生制度は、通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される制度で、本学では平成８年度より実施している。

満１８歳以上を対象に、前・後期で受講生を募って書類審査と面接で選抜する。科目等履修生になると図書館等の施設が本科生と同様に使用可能となる。ただし、入学検定料と１単位当たりの費用が必要となる。

令和元年度の科目等履修生は、前後期あわせて２４名が受講した。

受講科目は下表のとおり英語Ⅰや独語Ⅰなどの語学系科目から法経科、生活科学科の専門科目まで幅広く４４科目が選択された。

受講者は、会社等に勤めながら自分のキャリアアップのため知識を得ようとする一方、現在の職や趣味などを更に深めようと関係する科目を履修される方、また、資格取得に備え所要の単位を取得される方など志願理由は様々であった。

（前　期）

科　　目	単位	人数
社会福祉論	2	4
病理学	2	2
臨床栄養学実習	1	2
栄養教育論実習Ⅰ	1	1
給食計画実務論実習Ⅰ	1	1
（選科履修） 住環境計画	2	1
社会福祉論Ⅰ	2	1
障害者福祉論	2	1
児童福祉論	2	1
社会保障論Ⅰ	2	1
公的扶助論	2	1

（後　期）

科　　目	単位	人数
食品の機能	2	1
栄養教育論実習Ⅱ	1	2
管理栄養特殊講義	2	1
調理学実習Ⅲ	1	1
食品の機能	2	1
解剖生理学実験	1	1
民法Ⅲ	2	1
地方自治法	2	1
人間関係論	2	1
社会学	2	1
自然と科学	2	1

社会福祉発達史	2	1
ジェンダー論	2	1
社会思想史	2	2
家族関係学	2	1
カウンセリング論	2	1
金融論	4	1
地域史	2	1

情報と社会	2	1
心理学	2	3
会計学	4	1
工業簿記および原価計算	2	1
税法	2	2
環境政策論	2	1
情報と社会	2	1
民法Ⅱ	2	1
差別と人権	2	1

（通　年）

科　　目	単位	人数
独語Ⅱ	2	4
英語購読	2	2
英語Ⅰ	2	2
独語Ⅰ	2	2
給食計画実務論実習Ⅱ	1	2
校外実習事前事後指導	1	2

２　高等学校等との連携

本学では、より高いレベルの教育を受けたいと願う高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高等学校との相互協力や連携事業を推進する「高大連携」を、地域連携事業のひとつの柱に位置づけている。

本年度は、連携協定を締結している、三重県立亀山高等学校、相可高等学校、津商業高等学校、久居高等学校及びみえ夢学園高等学校との「高大連携」の取組を実施した。

また、高等学校を対象とした連携以外にも、本学附属図書館による市内の中学校での学生によるボランティア活動、司書による図書指導事業を通じた連携にも取組んでいる。

（１）　高大連携校との高大連携事業

高大連携校と、それぞれの協定に基づき、次の事業を行った。

ア　相可高等学校との出前講座（会場：相可高等学校）

① 日　時　令和元年１０月３日（木）午前１０時４０分～午前１２時３０分
　　午後１時４０分～午後３時３０分
② 講　師　生活科学科　講師　相川悠貴
③ 内　容　活動の違いが食欲に与える影響の観察
④ 対　象　相可高等学校１・２年生８０名

イ　相可高等学校との出前講座（会場：三重短期大学）

①日　時　令和元年１２月１１日（水）午前１０時００分～午後１時
② 講　師　相可高校 食物調理科　野呂朱美教諭
③ 内　容　クリスマス用ロールケーキの作り方
④ 対　象　三重短期大学生活科学科食物栄養学専攻１年生４９名

ウ　久居高等学校への出前講座

① 日　時　令和２年１月２９日（水）午後１時３０分～午後３時
② 講　師　法経科　教授　石原　洋介
③ 内　容　フェアトレードの挑戦
④ 対　象　同校２年生９名

（2） 一身田中学校図書館ボランティア活動

附属図書館は、平成１７年１０月から、一身田中学校の要請もあって、附属図書館司書と図書館ボランティアの有志学生により、書架整理、館内ディスプレイ、本の装備、等の図書館支援を行っている。平成２９年度からは、一身田中学校のお昼休みの時間に本学学生主催のワークショップ「みえたん・ラボ」を開催している。

（活動回数）　合計８回　参加学生数のべ１８名

「みえたん・ラボ」開催回数　４回　一身田中学校生徒参加者数　５８名

【第１回】　6 月 19 日（水）　オリジナル栞作り

【第２回】　7 月 12 日（金）　本の紹介ポップ作り

【第３回】　11 月 29 日（金）　本のタイトル穴埋めクイズ

【第４回】　12 月 16 日（月）　本の作者当てクイズ

（3） 市内学校への図書指導事業

市内小中学校図書館充実のための教育研究支援課主催の市内学校図書館関係者向け「図書館ステップアップ講座」「図書館サポート講座」へ司書を派遣している。

（図書館ステップアップ講座）

テーマ「小さな図書館ですが、こんなことやってます。　～防災の取組から～」

（図書館サポート講座）

テーマ「2020 年未来の旅　～おはなし会のアイデア～」

３　産学連携の推進

平成１９年１月、本学と株式会社三重銀行及び株式会社三重銀総研（現・株式会社三十三総研）は、学術研究の振興とその成果の地域社会への活用並びに組織運営に関する協働を推進するために産学連携を強化し、相互の発展及び地域の発展に貢献することを目的とする「産学連携に関する包括協定」を締結した。

今年度も、この協定に基づき、学生を対象とした小論文・作品コンクールを引き続き開催したほか、三十三総研より講師を招いた「企業論」の開講等の連携事業を実施した。

また、シーズ集「みえたんの種」を活用し本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

（1） 株式会社三重銀行及び株式会社三十三総研との産学連携

産学包括協定に基づき、次の事業を実施した。

ア　三重短期大学・三十三総研主催小論文・作品コンクール

株式会社三重銀行、株式会社三十三総研における地域貢献、本学における教育研究、及び地域貢献の推進を目的に、小論文・作品コンクールを実施した。

① 趣旨

三重短期大学と三十三総研の地域貢献を目的とする産学連携推進事業の一環として、学生の新鮮な知性・感性を活かした小論文・作品コンクールを実施した。

② テーマ

『持続可能な社会～SDGs の視点から～』

③ 応募資格

三重短期大学在学生（科目等履修生を含む)。共同執筆による応募も可

④ 応募規定

- 応募は１人（共同執筆の場合は１グループ）１作品のみ
- 日本語で書かれた未発表のものに限る
- 文字数は４，０００字程度

⑤ 募集期間

令和元年７月１日～令和元年１０月７日

⑥ 選考委員

委員長　　三重短期大学　学長　村井　美代子
委員　　三重短期大学　法経科講師　川上　生馬
委員　　三重短期大学　生活科学科准教授　北村　香織

⑦ 応募作品（タイトル名）

・セクシュアリティに対する理解を深めるＬＧＢＴ授業の薦め
・伊勢湾台風～情報の受容と活用～
・女性の社会進出と「2020 年 30%」を目標とする管理職登用について
・接続可能な社会を実現するために私たちにできること
・有期雇用から考える持続可能な社会

・日本における同性婚～法整備と子育ての観点から～
・伊賀組紐の見る伝統工芸品の持続可能性
・空き家問題について
・食品ロスや飢餓人口の削減を目指して
・地域経済における持続可能性
・持続可能な社会～地方銀行と地域活性化のつながり～
・日本の年金問題
・「現代社会で多くの人が陥っているワーキングプアの実態」
・再生可能エネルギーの可能性
・格差社会について
・持続可能な社会（見えない貧困）
・持続可能な財政政策～財政破綻は回避できるのか？～
・ファストファッションにおける代償
・生まれる前からの差別～声にならない叫びに気づいて～
・持続可能性を脅かすタックスヘイブン
・「気候変動による影響と対策について」
・働き方改革は実現できるのか～関連法の改正はできたが～
・「多種多様」を受け入れる環境づくりについて
　セクシュアルマイノリティーの視点から考える
・アメリカと中国から考える地球温暖化の現状と課題
・日本での外国人労働者問題
・『海洋プラスチック汚染」と「持続可能な社会」を目指して
・「現代の労働観」
・男女格差から考える社会での女性の活躍について
・「本当の意味での”誰一人取り残さない教育”をするためには」
・アレルギー対策
・海洋廃棄物における問題～持続可能な社会に向けてできること～
・水の危機について
・持続可能な社会の実現に向けた世界連邦運動について
・令和時代の年金制度改革
・孤独死対策におけるＡＩとＩｏＴの可能性
・「体に優しく美しく！冬の白和え」
・「やわらか豚角煮」～咀嚼力が低下した高齢者の低栄養対策レシピ～
・『体にやさしお！コクウマみそ汁』～和食で健康に～
・「栄養満点！皮つきりんごとトマトの鮮やかコンポート！」
　～これを食べて健康維持しよう！～

（全 39 作品）

⑧　選考結果

【最優秀賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
野村　真奈美	男女格差から考える社会での女性の活躍について	法経科第２部	小論文

【学長賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
森下　琴心	日本における同性婚 法整備と子育ての観点から	法経科第１部 法律コース	小論文

【優秀賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
伊藤　佳代	伊勢湾台風～情報の受容と活用～	法経科第１部 法律コース	小論文
黒田　若奈	空き家問題について	法経科第１部 経商コース	小論文
服部　史奈	生まれる前からの差別 ～声にならない叫びに気づいて～	法経科第１部 法律コース	小論文

【佳作】

氏名	タイトル名	学科	部門
岡澤　楓	女性の社会進出と「2020 年 30%」を目標とする管理職登用について	法経科第１部 法律コース	小論文
手嶋　美優	持続可能な社会 ～地方銀行と地域活性化のつながり～	法経科第１部 経商コース	小論文
加羽　麗奈	「多種多様」を受け入れる環境づくりについて～セクシュアルマイノリティーの視点から考える～	法経科第２部	小論文
中澤　菜穂	『体にやさしお！コクウマみそ汁』 ～和食で健康に～	生活科学科 食物栄養学専攻	レシピ

⑨　表彰式

日時　　令和元年１１月１４日（木）午後３時～午後４時

場所　　三重短期大学　大学ホール２階　小教室ＡＢ

表彰者　三重短期大学学長　村井　美代子

　　株式会社　三十三総研調査部長　別府　孝文

司　会　三重短期大学法経科　教授　楠本　孝

（表彰式）

イ　三十三総研より講師を招いた講義

①　講義科目　企業論

（専修第二（経済・経営）分野　前期　火曜日９－１０限目　受講者数５６名）

②　講　　師　山川　敏

（株式会社三十三総研　コンサルティング部リーダー　主任コンサルタント）

③　講義のねらい

㈱三十三総研から講師を招き、日々の企業コンサルから得た経験をもとに、会社を運営していくうえで大切なこと、経営革新の考え方や起業の視点について、社会人になってからも役立つような実践的な内容で講義いただいた。

④　授業内容

- 未来を予測し仮説をたてる　⑴起業の意義と外部環境把握
- 同　⑵外部環境把握
- お客様の満足を考える
- 事例研究
- 起業家の成功要因を考える：３つの側面からの考察
- 自分研究：自分の特長、やってみたいこと
- 経営理念の立て方：基本理念と行動理念
- マーケティングと経営戦略　⑴意義
- 同　⑵勝つための仕組みつくり
- 決算書の見方と資金繰り
- ビジネスプランの作成　等

（2） 三重短期大学シーズ集「みえたんの種」等の活用

教員の研究業績や社会的活動を載せたシーズ集「みえたんの種」や地域連携センターのホームページを活用して、本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

※　法経科楠本孝教授（地域連携センター長）の内容

楠本　孝（くすもと　たかし）

職　名	法経科　教授
授業科目	刑法、刑事政策
キーワード	犯罪、非行、刑罰、保護処分、治安、社会復帰、社会的排除、社会統合
研究テーマ	刑法解釈方法論、差別表現の刑事規制、触法精神障害者問題
研究テーマの応用例	・少年非行の分析と対策 ・精神障害者の触法行為と対策 ・外国人犯罪の分析と対策 ・ヘイト・スピーチと対策
最近の研究業績	[著書] 『刑法解釈の方法と実践』　現代人文社　2003 年 [論文] 「ヘイトスピーチ対策としての公共施設利用制限について」地研年報 22 号 2017 年／「ヘイトスピーチ刑事規制法の保護法益」『刑事法と歴史的価値とその交錯―内田博文先生古稀記念論文集』（法律文化社）2016 年／「ドイツにおけるヘイト・スピーチに対する刑事規制」法と民主主義 485 号 2014 年／「集団侮辱罪と民衆煽動罪」龍谷大学矯正保護総合センター研究年報 2 号　2012 年／「裁判員制度のもとでの死刑」日本の科学者 513 号 2010 年／「外国人登録制度の崩壊と新たな在留管理制度への再編」法と民主主義 441 号 2009 年／「裁判員制度の下での精神障害者」三重法経 135 号　2009 年／「外国籍の子どもの就学義務化をめぐる法的諸問題」日本の科学者 488 号 2008 年／「保安処分論議の今日的総括」　法律時報７４巻２号　2002 年 [その他] 「第２回　津市における来日外国人の生活実態調査報告書」地研年報 15 号 2010 年／「津市における来日外国人の生活実態調査報告書」地研年報 14 号 2009 年／「津市における外国人児童・生徒の就学状況調査報告書」2008 年 3 月
最近の社会的活動	・2007 年　津市青少年問題協議会委員（現在に至る） ・2017 年　津市人権施策審議会委員（現在に至る）
メッセージ	犯罪の原因は一様ではありませんが、社会的に排除され、社会参加の機会を奪われている人々が犯罪や非行に至りやすいということは否定できません。従って、そうした人々を社会に統合する施策こそが犯罪・非行対策上重要である、という観点から研究を進めています。

４　市政との連携

本学では、従来から津市立の公立短期大学として地域振興等の諸課題について、教員の各種審議会等への参画や市教育委員会主催の市民向け講座への参加を通じて、専門的な知識や経験を活用し、市政との連携を進めてきた。

今年度は、市政の諸課題について本学教員と職員が共に調査、研究する「政策研究・研修」を一つのテーマで取り組んだほか、津市立の特性を活かし、津市を一つの事例として、市長をはじめ職員によるリレー講義で自治体行政の現状や課題等について考える「自治体行政特論」を引き続き開講した。

（1）　政策研究・研修

①　目的

地方分権が進められるなか、地方財政の厳しさや市民意識の高まりを受け、津市をはじめ多くの地方自治体で「経営型」の行政運営、効率的行政運営が進められている。

一方、大学など高等教育機関では、従来からの教育、研究に加え、地域への貢献、地域との連携が強く求められるようになり、三重短期大学においても、地域のシンクタンク機能の充実を図ることを目指し市政との連携を地域連携の一つの柱としている。

政策研究・研修は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、当該職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決にあたるとともに、より戦略的かつ先進的な政策事務事業等の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的とする。

②　研修テーマ、指導教員及び研修生

テーマ　　地域包括支援センターにおける「地域課題の政策提言」に関する研修

指導教員　　生活科学科　准教授　武田　誠一

研修生

NO	氏　名	所属
1	松田　佳浩	松阪市　高齢者支援課
2	川岸　健太郎	鈴鹿市　長寿社会課
3	上村　博一	津市社会福祉協議会　河芸支部 津北部東地域包括支援センター
4	工藤　暢久	津市　地域包括ケア推進室

③　研修期間

令和元年７月２９日から令和２年３月２４日まで

④　主な研修内容（「研修計画」参照）

テーマ毎に分かれた研修生グループが、指導教員による指導の下、先進地視察やデータ解析等を行い、具体的施策への反映を視野に入れた調査・研究を行い、その成果を取りまとめた。

⑤　研究・研修計画

研究･研修計画

〔テーマ〕 地域包括支援センターにおける「地域課題の政策提言」に関する研修 担当教員：生活科学科准教授　武田　誠一	
テーマ解説	平成 30 年度より保険者機能強化推進交付金（市町村分）が導入さているが，その評価指標のうち，地域包括支援センターに関するものとして，複数の個別事例から地域課題を明らかにし，これを解決するための政策を市町村へ提言しているか. ア　複数の個別事例から地域課題を明らかにし，これを解決するための政策を市町村に提言している. イ　複数の個別事例から地域課題を明らかにしているが，解決するための政策を市町村に提言してはいない. 県内の現状としては，評価指標の「ア」「イ」のいずれかを算定している市町がある一方で，どちらも算定できない市町も見られる. この項目を算定できるか否かで交付金の増減に影響する．また，既に実施できている市町においても，その役割が行政直営型の地域包括支援センターに限定されているのであれば，委託型の地域包括支援センターまで広げることが今後必要である. そこで本政策研究･研修では地域包括支援センターが行う「地域課題の政策提言」について調査研究し，行政直営型，委託型問わず地域包括支援センターが「地域課題の政策提言」できるための力量形成を目指す.
研究計画等	● 三重県内での地域包括支援センターによる「地域課題の政策提言」の実態把握 ● 「地域課題の政策提言」を具体的な制度に結びつけた先進地視察 ● 参加自治体における「地域課題の政策提言」の取りまとめ
備考	

⑥　成果報告会

・日　時　令和２年３月２４日（火）午後１時５０分～午後３時００分

・場　所　三重短期大学　管理棟２階　演習室１

・内　容　研修目的等の説明、成果発表、研修内容に関する質疑応答

・主な参加者

松阪市高齢者支援課地域包括支援担当監、松阪市高齢者支援課地域包括支援係主任、津市健康福祉部地域包括ケア推進室長、津市社会福祉協議会津北部東地域包括支援センター長、学長、地域連携センター長、事務局長、事務局次長ほか

（成果報告会の様子）

（担当教員と研修生）

（2） 市政との連携講義「自治体行政特論」

津市を一つの題材に地方行財政に対する学生の理解を深めることを目的として、津市の市長をはじめ課長級等の職員のリレー講義形式で実施する「自治体行政特論」を平成１２年度より開講しており、令和元年度は次の内容で実施した。

当講座は、教室での講義だけでなく市議会の傍聴なども実施して地方行政の理解を深めている。

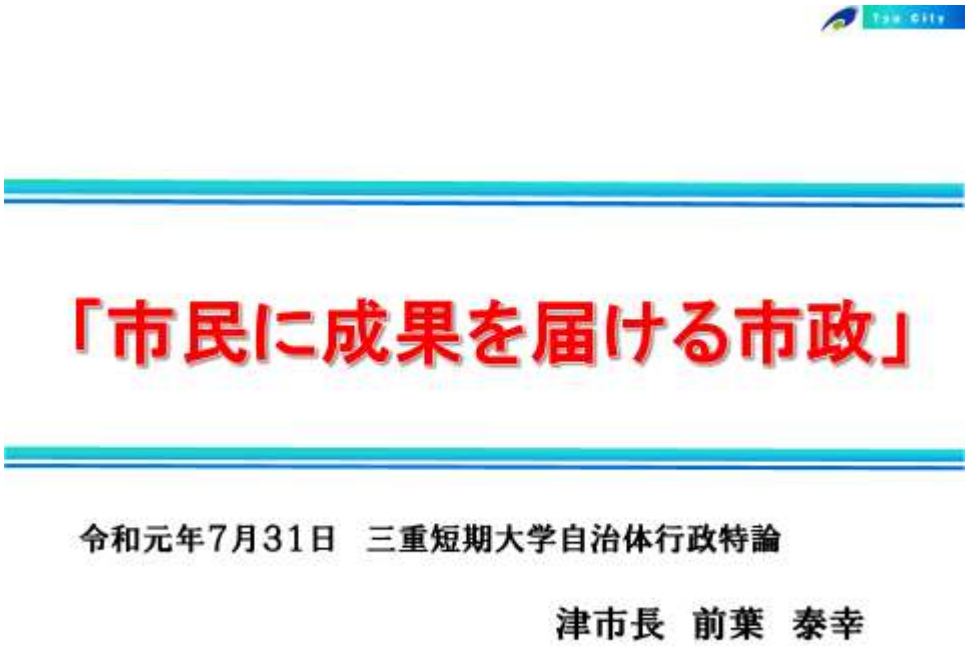
① 講義科目　自治体行政特論　（共通科目　前期　水曜日９－１０限）

② 担当教員　生活科学科　教授　小野寺　一成

③ 受講者数　１３１名

回	実　施　日	講義科目（キーワード）等	講　　師　　等
1	４月１７日(水)	オリエンテーション、津市の概況、選挙について	生活科学科　教授　小野寺　一成 選挙管理委員会 【選挙管理委員会事務局次長(兼)調整･選挙担当主幹　前田　裕久】
2	４月２４日(水)	津市総合計画について	政策財務部 【政策課政策担当主幹　森川　和敏】
3	５月　８日(水)	津市のシティプロモーション	政策財務部 【広報課広報課長　長井　誠】
4	５月１５日(水)	津市における文化センター等の整備運営について	スポーツ文化振興部文化振興課 【文化ホール施設担当主幹　小倉　伸子】
5	５月２２日(水)	子どもたちの輝く未来に向けて～津市教育委員会の取組～	教育委員会事務局 【教育推進担当参事(兼)学校教育課長 片岡　長作】
6	５月２９日(水)	津市ビジネスサポートセンター 津市の観光振興の取組について	商工観光部 【経営支援課調整・経営支援担当主幹(兼)企業誘致課企業誘致担当主幹　竹谷　吉聡】 【観光振興課調整・観光管理担当主幹 真田　貴之】
7	６月　５日(水)	津市の防災・減災への取組について 津市議会傍聴にむけて	防災室　【防災室長　出口　真也】 生活科学科　教授　小野寺　一成
8	６月１２日(水)	津市の林業振興	農林水産部 【林業振興室　林業振興担当主幹 藤田　昌也】
9	６月１８日(火)- ６月２１日(金)	議会見学	

10	６月２６日(水)	建築行政の実務	都市計画部 【建築指導課建築確認担当副参事 秋田　道康】
11	７月　３日(水)	津市の財政状況を知る	政策財務部 【財政課　財政課調整･財政担当主幹 野田　遊喜】
12	７月１０日(水)	環境行政について 廃棄物処理施設の概要	環境部 【環境事業担当参事(兼)環境事業課長 坂越　健二】 【環境施設担当理事　兼平　浩二】
13	７月１７日(水)	津市の障がい福祉	健康福祉部 【障がい福祉課長　　松田　孝行】
14	７月２４日(水)	参加と協働のまちづくりについて	市民部 【地域連携課　調整･広聴相談担当主幹(兼) 対話連携担当主幹　上田　雅輝】
15	７月３１日(水)	市長講義	市長　前葉　泰幸



（前葉市長による講義テーマ）

（3） 審議会、委員会委員への参画

津市や周辺自治体が直面している諸課題について、本学教員の専門的な知識や経験を活かし、各種審議会や委員会等へ参画し市政との連携を図った。

本学教員の今年度の審議会、委員会等への参画状況は次のとおり

	氏　　名	委嘱依頼元	委嘱依頼内容	期間又は期日
1	武田　誠一	一般社団法人 三重県介護支援専門員協会	三重県介護支援専門員専門研修課程担当　内部講師研修会講師	2020 年 3 月 18 日
2	相川　悠貴	筑波大学大学院 人間総合科学研究科	「人間総合科学研究科体育科学専攻キャリア支援フォーラム」講師	2020 年 3 月 5 日
3	北村　香織	健康福祉部障害福祉課	津市職員障害者差別解消法研修会講師	2020 年 2 月 18 日 14:00～15:30
4	浅野　和也	三重労働局	「若年者地域連携事業に関する技術審査委員会」委員	2020 年 2 月 18 日
5	浅野　和也	三重労働局	「令和２年度訓練受講希望者に対するジョブ・カード作成支援推進事業に関する技術審査委員会」委員	2020 年 2 月 28 日
6	浅野　和也	三重労働局	「令和２年度地域若者サポートステーション事業に係る提案書技術審査委員会」委員	2020 年 3 月 2 日
7	相川　悠貴	鈴鹿大学短期大学部	「基礎栄養学」非常勤講師	2020 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日
8	長友　薫輝	生活協同組合コープみえ	消費税増税・社会保障制度改革・ＴＰＰ等学習会 「くらしあんしん講座」講師	2020 年 2 月 8 日 10：00～11：45
9	長友　薫輝	全国若手市議会議員の会 東海若手市議会議員の会	「全国・東海若手市議会議員の会」 合同研修会講師	2020 年 1 月 27 日
10	長友　薫輝	三重県健康福祉部	三重県障害者自立支援協議会委員	2018 年 2 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日
11	木下　誠一	一般社団法人 三重県建設業協会	三重県建築賞応募作品の審査	2020 年 2 月 17 日～ 2020 年 3 月 31 日

12	藤枝　律子	鈴鹿市総務部	鈴鹿市個人情報保護審査会委員	2020年1月15日～ 2022年1月14日
13	北村　香織	三重県高等学校文化連盟ボランティア部門	２０１９年度ボランティア体験発表会審査員	2020年2月9日 10:00～15:30
14	山田　徳広	公益財団法人 日本豆類協会	原稿執筆（平成３０年度豆類振興事業調査研究）	2020年1月末日
15	小野寺　一成	津市都市計画部	津市建築審査会委員	2020年1月1日～ 2021年12月31日
16	藤枝　律子	津市都市計画部	津市建築審査会委員	2020年1月1日～ 2021年12月31日
17	北村　香織	三重県子ども・福祉部	三重県発達障害者支援地域協議会委員	委嘱日～ 2021年11月30日
18	藤枝　律子	三重県環境生活部	三重県自動車廃物認定委員会委員	2019年12月1日～ 2021年11月30日
19	長友　薫輝	三重県子ども・福祉部	「こころのバリアフリー推進事業」講師	2020年1月18日
20	長友　薫輝	松阪市介護保険課	松阪市高齢者保健福祉計画等策定委員会委員	委嘱日より2年間
21	駒田　亜衣	株式会社タスカル	アレルギーレシピコンテスト審査員	令和元年12月14日
22	藤枝　律子	鈴鹿市総務部	鈴鹿市情報公開審査会委員	2019年10月1日～ 2021年9月30日
23	藤枝　律子	鈴鹿市総務部	鈴鹿市行政不服審査会委員	2019年10月1日～ 2021年9月30日
24	浅野　和也	愛知東邦大学	「経営学Ⅱ」「経営管理論Ⅱ」「専門演習Ⅳ」非常勤講師	2019年10月1日～ 2020年3月31日
25	浅野　和也	中京大学	「アメリカ経営史」非常勤講師	2020年1月30，31日，2月3日
26	木下　誠一	松阪市建設部	松阪市景観アドバイザー	2019年11月1日～ 2021年10月31日
27	村井　美代子	内閣府 男女共同参画局総務課	男女共同参画推進連携会議議員	委嘱日～ 2021年8月15日
28	藤枝　律子	鈴鹿亀山地区 広域連合	鈴鹿亀山地区広域連合情報公開審査会 鈴鹿亀山地区広域連合個人情報保護審査会委員	2019年10月1日～ 2021年9月30日

29	山田　徳広	鈴鹿大学・ 鈴鹿大学短期大学部	公開講座講師 （管理栄養士国家試験準備講座「基礎栄養学」「応用栄養学」）	2019 年 9 月 14 日 2019 年 9 月 21 日
30	北村　香織	三重県子ども・福祉部	公正採用選考研修会講師	2019 年 8 月 27 日 2019 年 9 月 9 日
31	北村　香織	三重とこわか国体・三重とこわか大会 実行委員会	三重とこわか国体・三重とこわか大会実行委員会全国障害者スポーツ大会専門委員会ユニバーサルデザイン部会委員	委嘱日～ 2021 年 10 月 31 日
32	武田　誠一	三重県子ども・福祉部	三重県聴覚障害者支援センター指定管理者選定委員会委員	委嘱日～ 2020 年 3 月 31 日
33	村井　美代子	三重県総務部総務課	県民功労者選考委員会委員	2019 年 8 月 1 日～ 2023 年 7 月 31 日
34	飯田　津喜美	放送大学学園	放送大学非常勤講師	2019 年 10 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日
35	長友　薫輝	三重県民生委員 児童委員協議会	三重県在宅福祉研修会講師	2019 年 9 月 20 日
36	飯田　津喜美	（公社）三重県栄養士会	（公社）三重県栄養士会スポーツ委員会委員	2019 年 7 月 1 日～ 2021 年 6 月 30 日
37	村井　美代子	三重県医療保健部 健康づくり課	「三重とこわか県民健康会議」構成員	委嘱日～ 当会議解散まで
38	長友　薫輝	社会福祉法人 津市社会福祉協議会	津市地域福祉活動計画推進委員	2019 年 6 月 1 日～ 2021 年 5 月 31 日
39	北村　香織	亀山市総合政策部	亀山市新庁舎整備基本計画等検討委員会委員	委嘱日～ 2022 年 3 月 31 日
40	駒田　亜衣	三重県津保健所	津地域栄養管理ネットワーク研究会委員	2019 年 5 月 31 日～ 2020 年 3 月 31 日
41	木下　誠一	三重県 子ども・福祉部	三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員	2019 年 7 月 12 日～ 2021 年 7 月 11 日
42	北村　香織	三重県 子ども・福祉部	三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員	2019 年 7 月 12 日～ 2021 年 7 月 11 日
43	高橋　彩	名古屋外国語大学	教育心理学	2019 年 9 月 16 日～ 2020 年 3 月 31 日
44	藤枝　律子	桑名市人事課	桑名市職員研修講師	2019 年 9 月 11 日 2019 年 9 月 18 日

45	木下　誠一	津市都市計画部	津市景観審議会委員	2019年7月1日～ 2021年6月30日
46	大畑　智史	三重県出納局	三重県政府調達苦情検討委員会委員	承諾日～ 2020年3月31日
47	石原　洋介	三重県立みえ夢学園高等学校	平成３１年度学校関係者評価委員	2019年4月1日～ 2020年3月31日
48	木下　誠一	公益財団法人三重県建設技術センター	公益財団法人三重県建設技術センター　理事	2019年6月18日～ 2021年度 （定時評議員会終結時まで）
49	相川　悠貴	名古屋芸術大学	健康スポーツ（レクスポ） 健康スポーツ（バレーボール） 非常勤講師	2019年4月1日～ 2020年3月15日
50	長友　薫輝	松阪市民病院	地域医療構想を踏まえた医療機能の分化・連携と松 阪市民病院の将来像・経営形態の検討	兼業許可日～ 2020年3月31日
51	山田　徳広	三重県雇用経済部	「みえ食の人財育成プラットフォーム準備会議」委員	承諾日～ 2020年3月31日
52	高橋　彩	名古屋音楽大学	「発達と学習の心理学A」 「発達と学習の心理学 B」非常勤講師	2019年4月1日～ 2020年3月31日
53	武田　誠一	学校法人新潟福祉医療学園　日本こども福祉専門学校	「保健医療サービス」非常勤講師	2019年4月1日～ 2020年3月31日
54	長友　薫輝	四日市市市民文化部	四日市市民協働促進計画に基づ取り組みの検討	2019年4月1日～ 2021年3月31日
55	小野寺　一成	津市健康福祉部	津市福祉有償運送運営協議会委員	2019年5月1日～ 2021年4月30日

5　地域の大学との連携

三重大学の講義「共通セミナー」に本学学生が参加したり、教育学部家政教育コースと本学食物栄養学専攻の学生が中心市街地の店舗を利用した連携事業などを実施した。

また、みえ高等教育コンソーシアム主催のイベントで、三重県下すべての大学・短大・高専の学生による活動報告会「みえまちキャンパス」を三重短期大学にて開催した。

(1) 三重大学生物資源学部との連携　農林体験セミナー

自然環境や農林業に対する理解を深めることを目的に、三重大学の講義「共通セミナー」に本学学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林での講義・実習・体験学習を行った。参加した学生は宿泊所に泊まり、三重大学の学生とも交流を深めた。

ア　農場コース【土は生きている】

① 月　日　令和元年８月２１日（水）～２３日（金）

② 内　容　三重大学生物資源学研究科との連携事業（開放授業）として同大学 FSC 附帯施設農場等において、「土は生きている」をテーマに、地域特産農産物などに関する知識の習得やイネの収穫、伊勢茶の加工、うどん作りなどを行った。

イ　演習林コース【森は生きている】

① 月　日　令和元年９月１７日（火）～１９日（木）

② 内　容　三重大学生物資源学部研究科附属紀伊・黒潮生命地域フイールドサイエンスセンター附帯施設演習林において、「森は生きている」をテーマに、天然生林・二次林などに関する知識の習得や人工林の土砂災害調査、森林環境調査などを行った。

(2) 三重大学家政教育コースとの連携　三重短期大学と三重大学の連携による「津市センターパレスホール」を利用した学生カフェ『Café HONO BUONO』（カフェほのぼ～の）

① 月　日　令和元年１２月１６日（日）

② 会　場　津センターパレスビル５階「津市センターパレスホール」

③ 内　容　三重大学との大学間連携の一環として、三重大学教育学部と連携して、「津市センターパレスホール」で１日限定の学生による『Café HONO BUONO』を出店した。

三重短期大学生活科学科食物栄養学専攻の学生１２名と、三重大学教育学部家政教育コース（吉本敏子教授）の学生１２名が協議を進め、本年で１０回目の出店となった。

地域のコミュニティとなるカフェの出店を通じ、三重大学教育学部家政教育コースでは、企画・広報や消費者の立場、商店街の役割など消費生活に関する実習、三重短期大学食物栄養学専攻ではランチセット、デザートセットなどのクリスマスに合わせた食べ物を提供する実習を行った。

（接客の様子）

（調理の様子）

（津市長が来店）

（ランチセット）

（デザートセット）

(3) みえまちキャンパスｉｎ三重短期大学

令和２年２月１９日（水）高等教育コンソーシアム三重主催による「みえまちキャンパス in 三重短期大学」を開催した。これは、県内の学生たちが取り組む地域活動発表会で、11 団体の学生たちが参加し、プレゼンテーションとパネル展示による発表を行った。

発表では、地域住民へ地域を見直すきっかけを情報発信するなど、様々な地域の課題を取り組む学生たちの姿を見ることが出来た。

この活動発表会はコンテスト形式で行われ、来場者及び審査員の投票により、次のとおり受賞者が決定した。

部　門	賞　名	団体名
パネル部門	ベストパネル賞	Ｃａｆéほのぼ～の（三重短期大学）
プレゼンテーション部門	最優秀賞	紙芝居クエスト（三重大学）
	優秀賞	Ｃａｆéほのぼ～の（三重短期大学）
		鈴りん探偵舎（鈴鹿大学）

また、この活動発表会は、三重短期大学の学生による企画・運営により行われ、１年生・２年生の有志の学生たちが司会進行や受付・案内・投票集計などを担当した。終了後には、参加団体での意見交換会も開催し、学生同士で交流を深めることが出来た。

【参加団体と審査員】

【プレゼンテーション】

【パネル展示】

【受賞者】

６　学生による地域連携

本学では、およそ７００人の学生がそれぞれの目的を持って勉学に励みながら、サークル活動や大学行事を通して短期大学生活を送っており、この学生の短期大学生活を通しての地域との連携を地域連携の主体の一つとして掲げている。

今年度「地域連携サポーター」制度に３６名の学生の登録があり、このサポーターを中心に、地域の様々なイベントへの学生参加や地域清掃のボランティア活動などに取り組んだ。

また、本学学生が津市消防団学生機能別団に入団し、消防団員として様々な訓練を受けるなどの取組を行った。本年度の団員数は４０名であった。

（１）　地域連携サポーター制度

三重短期大学地域連携センターでは、地域連携活動やボランティア活動の情報を希望者に提供する地域連携サポーター制度を実施しており、登録学生数は３６名であった。

ア　一身田寺内町・環濠・本山境内清掃（第１回）

①　日　　時　令和元年５月２０日（土）午前９時００分～午前１０時００分

②　参加者数　２０名

イ　一身田寺内町・環濠・本山境内清掃（第２回）

①　日　　時　令和元年１０月２６日（土）午前９時００分～午前１０時００分

②　参加者数　１２名

（一身田寺内町・環濠・本山境内清掃）

（２）津市消防団学生機能別団員

同団は平成２５年度に三重県下初となる学生機能別団として発足し、同団員は、消防講演会等における支援及び広報を行う火災予防活動、災害時における避難所での応急救護、物資配布などの支援などの避難所での活動を行う。

今年度も引き続き募集し、新入生１５名が新たに任命され、津市夏期訓練などの訓練や津市消防本部が主催する防災啓発イベントに参加した。

（夏期訓練：救急救命）

(防災啓発イベント)

（３）三重短期大学大津波想定避難訓練

近年中に発生が危惧される南海トラフ巨大地震による津波による被害が、本学の所在地域でも予想されることから、学生、教職員のほか地元自治会及び老人会合わせて約２７５名が参加し、高台の避難所である三重県総合文化センターまでの徒歩による避難訓練を実施した。

学内では、三重県防災危機管理部防災企画・地域支援課から派遣された防災啓発車による地震体験や煙体験ハウスによる地震や火災の体験を行った。

また、津市消防本部職員の協力を得て、学生機能別団がＡＥＤの使用や人工呼吸などの救急救命の実演を行った。

①　　日　　時　平成３１年４月２５日（木）午前１０時～午後１時

②　　場　　所　三重短期大学及び三重県総合文化センター（祝祭広場）

（地震体験）

（徒歩による避難訓練）

（4）美化デー

①日　　時　令和元年１１月１４日（木）１２時３０～１３時３０分

②内　　容　市が実施する市民清掃デーにならい、三重短期大学「美化デー」として、時期を秋に変更して、本学周辺の清掃を学生と教職員とで行った。

③参 加 数　学生・教職員２２名

（5）榊原の地域振興を考える会との連携

①期　　間　令和元年８月８日（木）～令和２年２月１５日（土）

②内　　容　津市榊原地区の地域活性化の取り組み活動として、郷土料理レシピ開発に連携し、榊原地区の調理団体が調理した郷土料理の試食・意見交換を経て、講義で学んだ知識を基に地元食材を使ったレシピを提案した。

③参加者数　食物栄養学専攻学生・教員２名

④提案レシピとポイント

・『切り干し大根サラダ』……保存食である切り干し大根を使用。
　カルシウム豊富なレシピ。わさび風味。

・『郷土料理がらがらおろし』……郷土料理のひとつで、旬の大根を使用。
　大根に含まれる消火酵素の活用。

・『いちじくあんのパウンドケーキ』…地元特産のいちじくを活用。

（切り干し大根サラダ）

（郷土料理がらがらおろし）

（いちじくあんのパウンドケーキ）

Ⅱ資料

1　施設開放

本学では、「地域に開かれた大学」づくりを積極的に推進するために、教育・研究に支障のない限り、大学施設を地域に開放し、住民の皆さんが利用できるように努めている。

（1）　図書館

ア　概要

開館日	月曜日～金曜日
開館時間	開講日（講義がある日）…8：30～21：00 休講日（講義がない日）…8：30～17：00
休館日	土曜、日曜、休日、年末・年始（12 月 29 日～翌年 1 月 3 日）、毎月月末、その他館長の定める日。また、１月と７月は、利用不可
利用資格	18 歳以上の津市在住・在勤・在学者

イ　月別一般登録者数及び閲覧者数

年月	登録者数	未登録閲覧者数
平成 31 年 4 月	2	0
令和 元年 5 月	0	1
6 月	2	1
7 月	2	0
8 月	2	1
9 月	2	1
10 月	3	2
11 月	4	2
12 月	6	0
令和 2 年 1 月	0	0
2 月	1	1
3 月	0	0
合　計	２４	9

（２）　体育施設（体育館、テニスコート、グラウンド）

ア　概要

開放日	１月５日から１２月２７日までの間における土、日及び祝日		
開放時間	9：00～21：00		
使用料 (別途、夜間照明料要)	体育館	9:00～18:00	1時間につき 500 円
		18:00～21:00	1時間につき 750 円
	テニスコート	9:00～18:00	1時間につき 100 円(一面につき)
		18:00～21:00	1時間につき 100 円(一面につき)
	グラウンド	9:00～18:00	1時間につき 1,000 円
		18:00～21:00	1時間につき 1,000 円
利用条件	事前に、津市に在住、在勤、又は在学する者 10 人以上で構成された団体で登録が必要。先に「開放施設使用団体登録申請書」を提出し登録のうえ「開放施設許可申請書」にて申込み		

イ　月別登録団体数及び利用日数

年月	登録団体数	利用日数		
		体育館	テニスコート	グラウンド
平成 31 年 4 月	4	4	0	2
令和 元年 5 月	1	3	1	2
6 月	2	9	0	2
7 月	0	5	0	1
8 月	0	2	0	3
9 月	0	3	0	1
10 月	0	4	0	0
11 月	1	2	0	2
12 月	1	4	0	3
令和 2 年 1 月	0	5	0	3
2 月	0	2	0	4
3 月	0	4	0	0
合　計	9	４７	1	２３

2　三重短期大学地域問題研究所の研究一覧

地域問題研究所では、地域社会の発展、本学の教育・研究の発展に寄与することを目的に研究員（専任教員）が自身の専門分野に近い地域社会に関わる諸問題を調査研究している。

令和元年度は、次のような研究が行われた。

【　2019 年度　研究員 申請一覧　】

●研究員

研究員名	研究テーマ	研究概要
相川　悠貴	運動が食欲や食事摂取に及ぼす影響	【背景】対象や運動様式、対象者心理によって、運動が食欲や食事摂取に与える影響は異なることが明らかになってきた。エアロビック・抵抗性混合リズム運動は、楽しく、身体に高負荷を与えられる運動であり、健康維持に有効な運動として知られている。 【目的】エアロビック・抵抗性混合リズム運動が食欲と食事摂取に及ぼす影響を明らかにすることである。 【方法】健康な人を対象に、安静後と 60 分のエアロビック・抵抗性混合リズム運動後の食欲と食事摂取を、交差試験により検討する。対象者は 8 人程度募集する。運動強度は心拍数の変動により評価する。心理尺度は POMS2短縮版を用いて評価する。食欲、疲労はビジュアル・アナログ・スケールを用いて評価し、食事摂取は被験食を自由摂取させて評価する。 【予想される結果】60 分のエアロビック・抵抗性混合リズム運動後はイライラ感や抑うつ感が減少する。その満足感と運動による疲労により食欲が減少し、食事摂取量の増加が生じないことが予想される。【本研究の意義】体重減量に対する効果的な運動方法を提言する知見になり得る。これは、三重県民や三重短期大学学生の健康増進に繋がる知見となる。また、食物栄養学専攻学生と実施することで、卒業後三重県の健康増進に携わる者に、運動と食事に関する知識を身につけさせる成果も得られる。
大畑　智史	租税分野におけるマイナンバー制度	近年、世界的に行政など社会の多くの場面で ICT 化の動きが強まってきた。このような状況の中で、日本では、マイナンバー制度が 2015 年度に施行段階に入った。このマイナンバー制度と税制とが密接な関連性を持つことはよく知られているが、その詳細な関連性分析が求められる状況がある。三重県内の行政などの場面においてもマイナンバー制度は無視できない。以上のことから、本研究では、租税分野におけるマイナンバー制度の問題点とこれへの対策を考察する。 2019 年度は、これまでに実施した当該分析をより精緻なものとする。

		この際、できるだけ、三重県などの地域における、本研究の主要論点についての事例分析も交えることとする。以上の分析は、租税分野におけるマイナンバー制度のより精確な運用につながるものと考えられる。
駒田　亜衣	三重、和歌山、奈良県に伝わる郷土料理の一考察 ～「馴れずし」を中心に特徴とその背景～	熊野灘に面する、三重県の東紀州地域と、和歌山県の東牟婁郡とよばれるこの二つの地域は、江戸時代には同じ紀州徳川家の統治下にあり、当然ながら政治的、経済的、文化的な繋がりがあり、かつ気候においても共通点がうかがえる。また奈良県においても同様に、三重県とのかかわりは深い。 これらの地域は、郷土料理の側面からみても幾つか繋がりの傾向を感じる点が多くある。そこで本研究では、「馴れずし」をつくる地域への現地調査、および地域に残る資料から背景を追求し、その特徴を明らかにすることを目的とする。
山田　徳広	三重県産シロミトリ豆を用いた豆乳とアイスの開発に関する研究	シロミトリ豆はササゲの一種で、可食部100gあたり炭水化物57.7g、たんぱく質24.6g、食物繊維19.2gである。三重県においては県北中部に栽培が限定されいる。地元でも食べ慣れている年配者には知名度が高いが、若い世代にはあまり知られていない。栽培者の高齢化が進み、このままでは生産途絶えてしまう恐れがある。 そこで、若い世代にも受け入れられる、シロミトリ豆を用いた甘い豆乳並びにそれを用いたアイスを開発してシロミトリ豆の知名度アップと消費拡大に寄与することを目的とする。 研究方法は、でんぷん系の豆であるシロミトリ豆から作った生豆乳にでんぷん糖化酵素を作用させることによって甘い豆乳を作成し、その後にそれを凍らせたアイスの作成を試みる。
小野寺　一成	人口減少下での集約型都市構造再編と拠点形成に向けた研究 ー地方都市における実践と課題ー	2018年度まで在籍した、日本建築学会 都市計画委員会 地方都市再生手法小委員会から継続して、2019年度より同委員会の「地方都市拠点デザイン小委員会」のメンバーとなることから、引き続き地方都市再生に関する研究を行う。 近年、立地適正化計画制度に代表される人口減少に適応した都市構造再編のための計画制度が整備されている。しかし、人口減少に伴い表出する地区の空間構造の改変を時間的空間的に細 かくマネジメントし、望ましいものへと誘導していくためには、単なる「縮小」ではない拠点論、計画論、ネットワーク論、制度論などの拡充が求められる。今年度は、その知見に有用となる全国の先進事例や調査報告

		文献などを収集するものとする。 また、三重短期大学が立地する津市においても、「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を念頭に、都市計画マスタープランや立地適正化計画が策定されていることから、2019 年度の本研究は、津市においても持続的に発展できるような都市構造の構築に向けて、単なる「縮小」ではない拠点論、計画論、ネットワーク論、制度論などの知見を得るために全国の先進事例などを収集することにある。
武田　誠一	三重県における地域包括ケア体制の構築に寄与する「自立支援型」地域ケア会議のあり方に関する基礎研究	「自立支援型」地域ケア会議は，今期の津市介護保険事業計画でも各圏域での実施が謳われている．また，国は地域包括ケアシステムの深化の方策としても「自立支援型」地域ケア会議の実施を各自治体にもとめている． その結果，自治体に対する交付金の算定要件に「自立支援型」地域ケア会議の実施を指標に組み込みことで財政的インセンティブを導入している． 他方で，各自治体は「自立支援型」地域ケア会議の実施に関しては手探りの状態である．そのため本研究では三重県内で実施されている「自立支援型」地域ケア会議の実態を把握し，その特徴，課題などを整理する． 本研究は，自治体が主導する「自立支援型」地域ケア会議のあり方を明らかにするのみならず，「自立支援型」地域ケア会議に参加する専門職である，介護職，福祉職，保健・医療職の果たす役割にも言及していき，地域包括ケアシステム構築における多職種連携のあり方にも言及を深めていく．
田添　篤史	地域間格差が存在する場合の金融政策依存の問題点	現在のマクロ経済政策は、財政上の制約もあり金融政策に依存する形となっている。しかし金融政策によって決定されるマクロ的諸変数は全国に一律に影響するものであるため、地域間の経済状態に差が存在する場合には、各地域の経済実態を無視した影響を及ぼすことになる。 この研究ではその点に注目し、地域経済の実情に差が存在する場合に、金融政策に依存することがどのような影響を及ぼすかを、特に地域間格差の変動という点に注目して検討する。

北村　香織	女性労働からみる働き方改革	2018 年 12 月に「労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律」（以下、労働施策総合推進法）」が閣議決定され、それに基づいて厚生労働省は「労働施策基本指針」を示し、現在の働き方を変革し、多様な人材が活躍できる社会をつくることを目指している。 本研究では、特に貧困下に置かれた女性の現状から、政府の示す働き方改革が本当に実態改善に結びつく指針となっているのか検証したい。方法としては、三重県においてどのような具体的計画が示され、女性労働のどのような点に着目しているのかを整理した上で、海外での同様の取り組みや施策などと比較も行いながら日本の働き方改革の特徴を明らかにしたい。
長友　薫輝	地域の医療保障・介護保障づくりの政策展開に関する調査～地域医療構想と地域包括ケアシステムの動向から～	地域医療構想と地域包括ケアシステムを両軸として、地域における医療と介護の体制整備が進められている。昨年度は診療報酬と介護報酬が同時改定され、国民健康保険の都道府県単位化が始まった。このような時期において、実際に地域の医療保障・介護保障がどのように整備されているのか。これまで関わってきた秋田県鹿角市、福岡県北九州市における地域調査を行い、各自治体の今後の政策展開に貢献することを目的として研究を進めたい。

●奨励研究員

奨励研究員名	研究テーマ	研究概要
長友　薫輝	医療・介護・社会福祉の政策展開における評価指標のあり方を考える	医療・介護・社会福祉の制度改革が相次いでおり、特に自治体・地域に期待される政策展開が進められている現状において、制度・政策の評価指標と評価の仕組みはいまだ形成されているとは言い難い。そこで、今回の奨励研究として評価指標のあり方について考える地研交流集会の開催を契機として、様々な分野の評価指標、SDGs などの項目なども視野に入れながら研究を進めたい。

3　令和元年度　三重短期大学出前講座　テーマ一覧表

No	テ　ー　マ	概　　要	講　師	備　考
1	イギリスの文学や絵画にみる死生観	「平家物語」などの日本の古典文学に多い、生のはかなさや死への想いは、日本固有のものではありません。イギリスの詩や演劇、絵画の中に死生観をたどり、国や時代を超えた共通の人間の感性に触れます。	学長 村井美代子	
2	英詩に親しむ	英語の詩は難しい、と思われがちかもしれませんが、皆さんが幼いころ親しんだ歌の中には、百年以上前にイギリスやアメリカで生まれたものもあります。なじみのある英語の歌などを通して、英詩のリズや韻律に触れてみたいと思います。	学長 村井美代子	
3	あらすじで読み直すイギリス小説	「フランケンシュタイン」や「透明人間」、「タイムマシン」、「ガリバー旅行記」など、タイトルが半ば固有名詞化しているイギリス小説は少なくありません。 本来のストーリーをたどると、聞き慣れたタイトルから描くイメージとは異なる小説世界が見えてくるかもしれません。	学長 村井美代子	高校生も対応可
4	地方分権改革と地方自治	地域住民にとっても重要な「地方自治」のあり方を、近年実施されてきた地方分権改革の動向と絡めて考えます。	法経科 教授 立石芳夫	
5	生活保障のための政治行政システム	本来、政治や行政は、国民の社会生活を支えるためにありますが、近年、その不十分さが指摘されています。 「生活保障」という言葉をもとに、国民生活を支えるための政治行政のビジョンについて考えます。	法経科 教授 立石芳夫	
6	政治とは何か、行政とは何か	「政治」や「行政」とは何か、まずは政治学・行政学の立場から基本的なお話をし、そのうえで、日本など各国が抱えている主な課題をとりあげ、将来社会について考えます。	法経科 教授 立石芳夫	高校生向け
7	外国人との共生について	入管法など外国人の法的地位に関する法制度を解説し、外国人の生活実態調査から見えてくることを通して、外国人との共生の在り方を考えます。	法経科 教授 楠本孝	

No	テ　ー　マ	概　　要	講　師	備　考
8	裁判員制度について	裁判員制度の概要を解説し、その問題点を検証します。 より良い制度にするために、どんな改善点があるかを一緒に考えます。	法経科 教授 楠本孝	高校生も対応可
9	少年非行について	巷間言われる少年非行の増加、凶悪化、低年齢化は本当か？犯罪統計を基に検証します。 また、少年法適用年齢を 18 歳未満に引き下げることの是非についても一緒に考えます。	法経科 教授 楠本孝	
10	ニュースでよく聞く「行政代執行」って何？	ニュースでよく取り上げられる「ゴミ屋敷」や、壊れそうで危険な「空き家」などに関連して、「行政代執行」という言葉を耳にします。これは、行政上の強制執行制度の一つとして、行政代執行法に定めがあります。この制度はどのような場面で、どのように使われているのでしょうか。それは、行政の実効性確保の手段として有効でしょうか。行政上の強制執行制度の現状等を考えます。	法経科 教授 藤枝律子	
11	六法を引いてみよう	現代社会において、ある程度の法的知識を身につけておくことは非常に大切なことです。とはいっても、六法をめくってみると、文字ばっかりで、なんだか難しそうな文章が並んでいるし、読む気にもならないかも知れません。本講座では、六法を実際に引いてみて、六法の使い方を学んでいただこうと思います。何か面白い発見ができるかもしれません。	法経科 教授 藤枝律子	
12	国家賠償法とその判例	国家賠償法は、国や地方自治体の損害賠償責任に関するルールを定めています。国家賠償法の紹介をしながら、判例を取り上げ、国賠のもつ社会的な役割を考えます。	法経科 教授 藤枝律子	
13	契約に関する基本ルール	民法には、日常生活に密接に関連する規定が数多く規定されています。なかでも、契約に関連してくる基本ルール（契約の成立、契約の解消、損害賠償）について、具体例を用いて講義します。	法経科 講師 川上生馬	
14	相続に関する基本ルール	民法には、相続に関するルールが定められています。２０１９年より一部相続に関する規定が改正され、これまで存在しなかった制度が創設され、これまでとは取り扱いが異なる場合が出てきます。講義では改正点を中心に相続制度全体の解説を行います。	法経科 講師 川上生馬	
15	基本的人権の保障	日本国憲法において保障される基本的人権について，その種類や性質について解説します。	法経科 講師 鎌塚有貴	高校生可

No	テ　ー　マ	概　　要	講　師	備　考
16	選挙権について	国家と市民の関係について，選挙権をキーワードに考えます。	法経科 講師 鎌塚有貴	高校生可
17	TPP と今後の貿易協定の行方	米国の離脱で発効できなくなった TPP ですが、なぜ交渉をリードしていた米国は離脱したのか。そもそも TPP とは如何なる内容だったのかを学びながら、今後の日本の貿易協定の行方についても考えてみたいと思います。	法経科 教授 石原洋介	
18	日本銀行の異次元の金融緩和は持続可能か？	日本銀行は 2013 年からアベノミクスに連動する形で異次元の金融緩和を続けています。しかし、マイナス金利も導入したのに、インフレ目標の達成すらできません。この政策は有効なのでしょうか？そして、副作用の有無や持続可能性はどうなのでしょうか？	法経科 教授 石原洋介	
19	フェアトレードの挑戦	長年の先進国や国際機関からの援助にもかかわらず、世界にはまだ多くの貧しい人々が存在します。近年注目を集める、公正な取引を通じて貧困問題を解決する手法、フェアトレードについてお話します。	法経科 教授 石原洋介	高校生向け
20	決算書の読み方	初学者を対象に、決算書の読み方を講義します。どのような組織体であっても、決算書の作成は重要な役割を果たします。決算書には主に貸借対照表と損益計算書があります。「なぜ決算書を作成するのか？」や、決算書の読み方について、現実の企業と照らし合わせながら、その仕組みを読み解いていきましょう。	法経科 准教授 田中里美	高校生も対応可
21	キャッシュ・フロー計算書の役割と見方	上場企業の決算書には、連結貸借対照表と連結損益計算書に加え、連結キャッシュ・フロー計算書の開示求められています。貸借対照表や損益計算書については会計学を勉強する上での基本的位置づけになりますが、キャッシュ・フロー計算書はさらに企業の状況を詳しく理解するための開示書類と位置づけられています。現実の企業のキャッシュ・フロー計算書を用いて、その見方、読み方を解説します。	法経科 准教授 田中里美	
22	税とは何か	税金は、われわれの日常生活に非常に密接な関わりがあります。本講義では、なぜ課税されるのか、など、税金に関する根本的な考え方について分かりやすく解説します。	法経科 准教授 大畑智史	
23	マイナンバー制度の今後の課題	日本で、マイナンバー制度の活用が本格化してきています。本講義では、マイナンバー制度の今後の課題について、マイナンバー制度の概要、その民間活用、などの視点を込めて分かりやすく解説します。	法経科 准教授 大畑智史	

No	テ　ー　マ	概　　要	講　師	備　考
24	消費税増税の性質を理解する	消費税増税は日本でもよく議論されています。本講義では、租税負担の公平性の視点からみた消費税増税の性質などのその各種性質を、消費税の歴史、消費税の構造、などの視点を込めて分かりやすく解説します。	法経科 准教授 大畑智史	
25	日本の社会的統合の在り方	どのような社会であれ、その社会が安定するには一定の形で社会全体が統合されている必要があります。日本はどのような形でそれを行ってきたか、そしてどのように変化しているのかをお話しします。	法経科 准教授 田添篤史	
26	経済学とは何か	経済学にはいくつかの学派が存在します。それぞれがどのような特徴をもっているのかを、経済学の歴史を振り返りながら解説します。	法経科 准教授 田添篤史	
27	マーケティングを通じて自分の価値創造を高めよう	現代においてモノを売る時代からコトを売る時代へと変化しています。マーケティングを通じて自分の生活シーンをどう描いていくか考えていきましょう。	法経科 講師 鷲尾和紀	
28	10 代から学ぶパーソナルファイナンス―ライフプランを考えよう―	将来自分がどうなりたいのか。生活していくにはさまざまな費用がかかってきます。自分の将来設計を考えながらお金にまつわる話をしていきたいと思います。	法経科 講師 鷲尾和紀	高校生向け
29	さまざまな角度で日本経済を見ていこう	GDP(国内総生産)の支出側から見た内訳の半分は家計消費、いわゆる我々の財布の中身です。それがどう経済と結びついているのかさまざまな角度で説明していきたいと思います。	法経科 講師 鷲尾和紀	
30	音楽を通してみるドイツ語の詩	ゲーテの詩をもとシューベルトが作曲した歌曲『魔王』は非常に有名で、音楽の授業で聴いたことがあるかもしれません。しかしこの他にも様々な『魔王』が存在します。この詩と歌曲の成立についての解説と歌曲の鑑賞を通してドイツ語と音楽の響きとリズムを味わいたいと思います。	法経科 准教授 今本幸平	
31	歌曲『ローレライ』成立の背景	日本語唱歌としても知られるドイツ歌曲『ローレライ』は、19 世紀にドイツで沸き起こった合唱ブームの中から生まれました。ドイツにおける合唱運動とはどのようなものか、また耳に馴染みのある旋律ほどには知られていない作曲者ジルヒャーや詩人ハイネの紹介と合わせて、この曲の成立の背景についてお話します。	法経科 准教授 今本幸平	

No	テ　ー　マ	概　　要	講　師	備　考
32	ビタミンとミネラルの話	食品中には、いろいろなビタミンやミネラル（無機質）が含まれています。食生活を豊かにするためには、それらの栄養素の働きを知ることは大切です。13 種のビタミンとミネラルについて、体内での働きや多く含まれる食品についてわかりやすく解説します。	生活科学科 教授 橋本博行	
33	いろいろな食中毒と予防方法	良く知られた食中毒として、サルモネラなどの食中毒菌やノロウイルスが原因のものがあります。一方、ジャガイモの芽など動植物に含まれる自然毒が原因の食中毒もあります。安全な食生活を送るために、具体的な食中毒の事例と予防方法について説明します。	生活科学科 教授 橋本博行	
34	魚を食べよう！ （ω-3 脂肪酸の話し）	一般にω-3 脂肪酸と言われている EPA，DHA，α-リノレン酸。生活習慣病予防の予防と治療の観点からこれらの脂肪酸が注目を集めています。 意外と知られていないω-3 脂肪酸の害を含めて、上手なつきあい方を解説します。	生活科学科 教授 山田徳広	
35	糖尿病との付き合い方	糖尿病は怖い病気であると言われています。それではなぜ、血糖値が上がると恐ろしいのでしょうか？筋肉運動がインスリンの代用をする事も意外と知られていません。糖尿病は上手に付き合えば、長生き出来るのです。 糖尿病の病態を説明すると共に、食事と運動を組み合わせた糖尿病との付き合い方を提案します。	生活科学科 教授 山田徳広	
36	メタボリックシンドロームの現状と食生活による予防	メタボリックシンドロームはなぜいけないのか？ 体の中で行われる代謝の仕組みから考え、食生活による予防を目指します。 ワークショップを取り入れ、自分自身で実行可能な行動目標を立てていきます。	生活科学科 准教授 阿部稚里	※2019 年 9 月 30 日まで
37	食事をバランスよく食べよう！	バランスよく食べるためにはどうしたらいいのか？ 食事バランスガイドを使って、自分の食事内容を見直し、バランスのよい食事を目指します。 料理カードを使い、自分自身でバランスのよい献立を組み立てていきます。	生活科学科 准教授 阿部稚里	※2019 年 9 月 30 日まで
38	栄養士・管理栄養士とは？	栄養士・管理栄養士の仕事内容、栄養士・管理栄養士の活動の歴史など、栄養士や管理栄養士が身近に感じられるようなお話です。 栄養士を目指す学生に、本学食物栄養学専攻の講義内容や在学生の様子なども合わせて紹介します。	生活科学科 准教授 阿部稚里	※2019 年 9 月 30 日まで 高校生向け

No	テ　ー　マ	概　　要	講　師	備　考
39	メタボ健診受診のすすめと津市の健康課題	平成20年から始まった特定健診、いわゆる「メタボ健診」。津市では毎年約 19,000 名近くの方が受診されていますが、どの検査項目が良好で、どの検査値が要注意なのか、実際のデータ解析から分かった津市の特徴などをお示しし、健康課題について考えます。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	
40	海外での栄養士活動	途上国で青年海外協力隊の栄養士として過ごした2年間の活動を報告します。 ドミニカ共和国と日本の違い、栄養士として活動する中で工夫した点、その他、国の様子や現地の人との生活、食習慣などについてご紹介します。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	高校生も 対応可
41	三重県の食状況について	三重県民の食事の状況はどう変わってきたのでしょうか？これまでに実施されてきた県民健康・栄養調査の詳細な解析結果について、全国と比較しながらご紹介します。不足している食品は何か、摂り過ぎに気を付けるべき栄養素は何かなど、問題点や課題について一緒に考えたいと思います。	生活科学科 准教授 駒田亜衣	
42	健康のための運動と食事	健康に生活するため、運動と食事は重要です。運動と食事が、脳、筋、脂肪、骨、その他臓器に及ぼす影響について説明し、身体を強くするために取り組んで頂きたい活動について紹介します。	生活科学科 講師 相川悠貴	高校生も 対応可
43	競技力向上のための栄養	スポーツの競技力を向上させるために､栄養は重要です。競技や目指す身体によって、理想の食事や栄養補給方法は異なります｡「バランスの良い食事をしましょう｡」に留まらないお話をしていきます。	生活科学科 講師 相川悠貴	高校生も 対応可
44	健康づくりのための家庭料理を学ぼう	近年、生活習慣病は増加の一途をたどり、食による健康保持・疾病予防の必要性が高まっています。 旬の食材を用いた調理実習、味噌汁の食塩量調べなどの実習を通して食からはじめる健康づくりのポイントをお話しします。	生活科学科 助教 飯田津喜美	高校生も 対応可
45	食物からのDNA抽出実験	身近な食材（鶏レバー）から DNA を抽出して白い糸状の沈殿を観察してみましょう。(時間に応じてパワーポイントスライドを併用し実験操作を短縮することも可能です。)	生活科学科 助教 飯田津喜美	高校生 向け
46	骨の健康を守るために	骨量は年齢とともに減少し、骨折しやすい状態になります。特に女性はホルモンの変化により骨量の減少が顕著です。骨の健康を維持するための食習慣、生活習慣についてお話します。	生活科学科 助教 杉野香江	

No	テ　ー　マ	概　　要	講　師	備　考
47	自分に必要な栄養量を考える	人はそれぞれ必要なエネルギーや栄養素の摂取量が異なります。理想的な体重や、厚生労働省による日本人の食事摂取基準を確認しながら、自分に必要な栄養と食事、さらに健康づくりについて一緒に考えます。	生活科学科 助教 杉野香江	高校生向け
48	ロコモを調べてロコモ予防	ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ）とは運動器の障害により、移動機能の低下をきたした状態をいいます。ロコモ度テストで年代相応の移動機能を維持できているか確認し、ロコモ予防のための生活習慣について考えます。※体験型の講座のため、会場の広さや参加人数によって実施できない場合があります。	生活科学科 助教 杉野香江	
49	保健機能食品を利用してみよう	国の管轄のもと販売されている保健機能食品のうち、主に「特定保健用食品」「機能性表示食品」について概説しながら、その使用方法を提案します。さらに、日常の食事にも保健機能食品を取り入れられるように、いくつかのレシピも紹介します。	生活科学科 助教 服部知美	
50	特定保健指導と生活習慣病の予防	法律に基づき平成 20 年から導入されたメタボリックシンドローム等の生活習慣病予防のための特定保健指導について解説します。また生活習慣病予防、健康増進の観点から、食生活、運動、飲酒、喫煙、睡眠等の生活習慣の改善についてお話します。	生活科学科 助教 服部知美	
51	地域の医療や福祉のことを考える	アイスブレイク、ゲームなど社会福祉援助技術のグループワークという技術を用いて、地域の医療や福祉のことを考えるきっかけを提供します。	生活科学科 教授 長友薫輝	
52	働く前に知っておきたい社会保障のこと	アルバイトなど「働く」ということを通して社会に出る、その前に知っておきたい社会保障のことを考えてみませんか？ この社会で生活する上で知っておいて損はないことばかりです。	生活科学科 教授 長友薫輝	高校生も対応可
53	障がい者って誰のこと？	普段何気なく使う「障がい者」とは、一体誰のことを指すのでしょうか。 視力が悪く、コンタクトを使っている人は障がい者だろうか？「障がい者」とは？ということを確認していく作業を通して、「障がい」とは何なのか、自分が暮らす社会に存在する、障がいのある人を支える仕組みについて考えます。	生活科学科 准教授 北村香織	高校生も対応可

No	テ　ー　マ	概　　要	講　師	備　考
54	社会福祉のしくみ	社会福祉は、一般的に「思いやり」や「やさしさ」という言葉で語られがちですが、社会福祉とは、「健康で文化的な最低限度の生活」を守るための、具体的な制度やサービスとして存在しています。 社会福祉のサービスや制度について、歴史をひもとき、実際の制度を紹介しながら考えます。	生活科学科 准教授 北村香織	高校生も 対応可
55	病院で「もうすぐ，退院です」と言われて慌てないために…	高齢化による医療費増加に伴って、入院期間は短縮される一方です。しかし、そのことは本人・家族が入院して初めて直面する課題となっています。スムーズな退院を実現するために、何をすべきか、事前に知っておきませんか？	生活科学科 准教授 武田誠一	
56	ソーシャルワーカーという仕事	ソーシャルワーカー（社会福祉士，精神保健福祉士）とは、どのような仕事なのか？活躍するフィールドを示しながら、その役割を詳しく説明していきます。	生活科学科 准教授 武田誠一	高校生 向け
57	地域で高齢者の生活を支えるために，私たちができること	国は「自助・互助・共助・公助」による地域包括ケアシステムの整備を進めています。特に近隣住民による「互助」が強く求められています。そこで，私達の地域で何が可能か考えてみませんか？	生活科学科 准教授 武田誠一	
58	人を援助する「私」を知る	地域で福祉ボランティアを始める際に理解しておくべき，対人援助場面でのコミュニケーションのあり方，心構えなど学びます。 そして，他者を支援する「私」を知ることの重要性を考えていきます。	生活科学科 准教授 武田誠一	
59	援助のキホンー専門職の援助観を考えるー	この講座は，対人援助の現場で働く方向けに，人を支援する専門職の援助観を考えていくものです。 施設，事業所内での職員研修などを想定しています。	生活科学科 准教授 武田誠一	
60	「青年期」を理解する	人生における青年期とは、どのような時期なのかについて、心理学の観点から解説します。「スマホ依存」「対人関係が苦手」「自立しない」など、何かと問題視されがちな若者像についても、実証的研究をもとに考えてみます。	生活科学科 准教授 高橋　彩	高校生も 対応可
61	自分はどんな性格なの？ パーソナリティ心理学	パーソナリティテストを用いて、自分自身の性格を測定し、自己理解に役立てます。そうしたテストがどのような理論に基づいて作成されているのかも解説します。	生活科学科 准教授 高橋　彩	高校生も 対応可

No	テ　ー　マ	概　　要	講　師	備　考
62	生物多様性を考える	生物多様性の破壊は、地球温暖化問題と並んで、人類にとっての最重要課題となっています。震災と原発事故以降注目されることが少なくなったようですが、問題の重要さや深刻さが解消されたわけではありません。 「生物多様性とは何か」「なぜ保全が必要なのか」「何が求められているのか」といったテーマについて解説します。	生活科学科 教授 南　有哲	高校生も 対応可
63	外来生物問題の環境倫理	生物多様性を脅かす要因の一つとして外来生物問題が注目され、関連する法制度の整備や駆除の取り組みも進んできました。またこの問題は、自然と人間の関係にかかわる多様な論点を提示してくれます。外来生物問題について「環境倫理学」の観点から考えていきます。	生活科学科 教授 南　有哲	高校生も 対応可
64	共に住まう集合住宅	家族や近隣との関係が希薄になり、子育てや介護の不安などから共に住まうことの価値が見直されています。このような集合住宅の特徴について紹介します。	生活科学科 教授 木下誠一	
65	高齢者の住まい	高齢者の方が心身の状況に応じた住まいを確保し、生活支援や介護サービスなどを利用しながら安全で快適に暮らせる住まいについて考えます。	生活科学科 教授 木下誠一	
66	住民参加とコミュニティ	全国各地で住民参加のまちづくりが取り組まれており、少子高齢化や人口減少化の時代に、その必要性が問われています。木造密集市街地の住環境整備と公営住宅の建替え事業を事例に、コミュニティの形成などに向けた、住民主体のまちづくりの大切さについて考えていきます。	生活科学科 教授 小野寺一成	高校生も 対応可
67	都市計画とまちづくり ～持続可能なコンパクト＋ネットワークシティの形成に向けて～	まちづくりという言葉はよく耳にしますが、その基本となる都市計画についてはあまり知られていません。日本における都市計画とまちづくりの変遷を解説しながら、都市づくりやまちづくりに必要な都市計画法・制度等についてやさしく紹介します。 また、人口減少化時代における持続可能なコンパクト＋ネットワークシティの形成に向けた取り組みを考えていきます。	生活科学科 教授 小野寺一成	
68	まちづくりと景観計画	全国各地で都市景観の乱れが進行している中、環境問題や生活の豊かさへの関心の高まりとあわせて、都市景観づくりに対する市民の意識が高まっています。ここでは、魅力あるまちづくりの一環としてアーバンデザインの考え方やまちづくりと景観計画について紹介します。	生活科学科 教授 小野寺一成	

No	テ　ー　マ	概　　要	講　師	備　考
69	インターネットとセキュリティ	近年、インターネットの利用における情報セキュリティ対策の重要性が高まっています。本講座では、インターネットの仕組みを学び、それに加えて、インターネットを安全に利用するためのセキュリティ対策を紹介します。	生活科学科 准教授 笠浩一朗	高校生も対応可
70	プログラミング教育で何が変わるのか？	プログラミング教育の必修化により、プログラミングへの関心が高まっています。 プログラミング教育とは、どのようなもので、どのような能力が身に着くのか解説します。	生活科学科 准教授 笠浩一朗	
71	人工知能の今	ディープラーニングによって人工知能が急速に進化している。それより社会が大きく変わろうとしている。人工知能が今できること、近い将来起こることについて紹介する。	生活科学科 准教授 笠浩一朗	高校生も対応可

2019年度（令和元年度）

三重短期大学地域連携センター年報

令和2年12月

発　行　　津市立三重短期大学　地域連携センター

〒514-0112　三重県津市一身田中野 157 番地

TEL　059-232-2341　　FAX　059-232-9647

E-mail　232-2341@city.tsu.lg.jp